



るもい風土資産カード

道の駅「おびら鯨番屋」

鯨料理が楽しめるオロロン
ラインの休憩スポット

小平町字鬼鹿広富の国道232号沿いにある道の駅「おびら鯨番屋」は、札幌市と稚内市のほぼ中間に位置し、日本海オロロンラインのドライバーの休憩と観光ポイントとして知られています。敷地内には道の駅の駅舎と、日本最北端の国指定重要文化財である旧花田家番屋があります。明治から大正にかけて北海道西海岸ではニシン漁が全盛を極めており、「鯨番屋」は明治後期にニシン定置網を営んでいた花田伝作氏によって建てられました。番屋は、地方から出稼ぎにきていた漁夫の生活の場でした。現在は郷土資料館に、当時のニシン漁の様子や全盛期の網元の栄華を今に伝えています。

平成8年(1996年)4月にオープンし、平成27年(2015年)4月にリニューアルした道の駅の駅舎は、鯨番屋に調和するよう古い木造風の建物に仕上げられ、特産品の販売や歴史文化保存展示ホールなどを有している「観光交流センター」、日本海の海の幸が楽しめるレストランが人気の「食材供給施設」が立ち並んでいます。「食材供給施設」の2階は団体客向けに広い板の間になっており、大人数の会食にも対応できます。毎年5月下旬には敷地内で「鯨番屋まつり」も開催され、郷土芸能や各種ゲームなどのイベントも行われ、多くの来場者でにぎわいます。国道を隔てた向かい側の海辺にある「にしん文化歴史公園」には遠い昔、小平町を訪れた探検家・松浦武四郎の銅像が設置されています。夕陽をイメージしたモニュメントには、武四郎が詠んだ短歌(西蝦夷日誌に記述)が刻まれています。日本海に沈む夕陽が美しく、撮影ポイントとしても人気があります。

見どころ

日本最北端の国指定重要文化財である旧花田家番屋は郷土資料館として、当時のニシン漁の様子や全盛期の網元の栄華を今に伝えています。毎年5月下旬には敷地内で「鯨番屋まつり」も開催され、郷土芸能や各種ゲームなどのイベントも行われています。

ポイント

日本海オロロンラインは北海道の西海岸、小樽から石狩、留萌を経て稚内まで続く約332kmの沿岸ルートで、「おびら鯨番屋」はそのほぼ中間地点にある道の駅です。日本海沿岸を走る長距離ドライブの休憩地点としても最適で、地元海の幸を求めて立ち寄る人も少なくありません。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

味

道の駅内には鯨料理や旬の刺身など、小平町ならではの日本海の海鮮を取り揃えたレストランがあり、日本海オロロンラインの旅の醍醐味を味わえると、ドライブ客に人気です。

嗅

明治から大正にかけて北海道西海岸でニシン漁が全盛を極めていました。国指定重要文化財である旧花田家番屋では、当時の栄華を感じることができるでしょう。

知る

「北海道」の名付け親である松浦武四郎翁は安政4年・1856年に日本海沿岸探索をした際、この地に立ち寄りました。その時に鬼鹿を詠んだ歌が資料により今も残っています。

■基本情報 (R4.6)

住 所：留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2
T E L：0164-56-1828(観光交流センター)
0164-57-1411(レストラン)

営業時間：9:00～18:00(5月～9月)
9:00～17:00(10月～4月)
レストラン 10:30～16:00(5～10月)
10:30～15:00(11～4月)

休 館 日：年末年始
レストランは毎週月曜日(1～2月休業)
※6月第3月曜～8月第2月曜まで無休